

3年生
総合的な
学習の時間

「世界の友だちに自分たちが できることを考えよう」

神奈川県
藤沢市立善行小学校
佐藤大輔

活動の ねらい

本校では、毎年ユニセフ募金を行っている。毎年行っていることから、子どもたちの中には、深く考えることがなかったり、何気なく募金をしていたりする子もいる。そこで、子どもたちに自分たちの募金が、実際にどのように、どのような所で役に立っているのかを実感させたい

という思いを強く持っていた。また、募金に関心のない子どもでも、世界には様々な環境で生活している人々や子どもたちがいる事実を伝え、現状を知ることと同時に自ら考え、何か行動したいという思いから、自己の生き方を考えることができるようにこの学習を設定した。

1 使用した 教材

- モンゴルの物語「スーホの白い馬」
- モンゴルの食べ物「羊料理」の絵
- モンゴルの楽器「馬頭琴」
- 水運びを体験する水タンク

2 学習活動の流れ

①モンゴルの国の様子について、自分たちの生活の身近にある物で考える。

(ア) モンゴルの物語「スーホの白い馬」を読み想像させる。
●移動生活には馬を使い、4歳頃には一人で馬に乗れるようになる。

(イ) モンゴルの食べ物「羊料理」の絵を見せ、モンゴルの生活を考える。
●羊料理は貴重な食べ物であることを考えさせる。



©佐藤大輔
馬を先導する少年

(ウ) モンゴルの楽器「馬頭琴」を見せ、イメージを持たせ、音を聞き想像させる。
●生徒にも実際にさわらせたり音を出させたりして考えさせる。

(エ) その他、知っていることを発表する。



©佐藤大輔
楽器「馬頭琴」の体験

②モンゴルの子どもをとりまく生活環境について考え、自分たちの生活との違いに気付かせる。

(ア) 水は、家から離れた「ウォーターキオスク」という遠方まで汲みに行くことを考え、水道が使えない生活環境について考える。

(イ) 水運びは、主に子どもが行っていることを知り、実際に水運びの体験をする。



©佐藤大輔
ポリタンクで水の重さを体験する

3 児童の感想を聞く

- 水を運ぶのは大変だと思った。
- みんなが水を使えるようにしたいと思った。
- 学校に行かずに家のために水を運ぶなんてえらい。
- 水を大切にしようと思いました。
- 募金をして助けたい。
- エコキャップをたくさん集める。

4 自分たちができることを発表する

学習を振り返り、自分たちの生活との違いや、自分たちにできることなどをまとめ、発表する。

5 成果と課題

今回の学習では、日ごろの自分たちの生活と違い、家庭生活や学校生活などにおいて厳しい環境に置かれているモンゴルの子どもたちの生活を知ることができた。また、自分たちの生活環境の違いを理解することにより、自分たちの生活を見直し、節約することの大切さや世界の厳しい環境にいる子どもたちに対して、募金やペットボトルのキャップ集めなどが役立っていることを知り、次の行動への意欲となった。今回の授業を学級・学年で留めることなく、今後は学校全体へ広げた活動の展開を図っていきたい。